

The Akita University Post

Thursday, April 3, 2014 No.22

TAKE FREE



発行 AUP秋田大学報道局 〒010-8502 秋田市手形学園町1-1 mail: aup@live.jp

海外で活躍できる人材を

吉村昇学長インタビュー



6年間、秋田大学学長として様々な改革を行ってきた吉村昇学長（70）が今年度限りで退任となる。今日までのような思いで大学を運営してきたのか、そしてこれからの大学はどうなっていくのかを語っていただいた。

6年の任期中で、力を入れられた仕事はなんですか。

前半3年が環境整備で、建物など全体の景観はかなり変わりました。

後半3年はソフトウェアの整備で、学部改組や秋田大学のコンセプトをどのように作り上げるかということに力を注ぎました。5年目からは一気に走り抜け、山でいうと山頂まで一気に駆け上がったような感じです。

任期を終えようとしていますが、今どのような気持ちでしょうか。

毎日プレッシャーの連続で緊張感がありますよ。学長のリーダーシップやガバナンス改革で秋田大学が注目を集めていますから、大学組織をこの3月までにしっかりと作らなといけません。

学部改組で国際資源学部を発足させました。

教育文化学部は「ゼロ免課程」（教員養成系学部におい

て、教育職員免許状の取得を卒業要件とせず任意としている課程の通称）の定員を大幅減にしました。もともと教育文化学部というのは教員養成が主体の学部なので、教員養成を少し増やしてゼロ免の定員を100名にし、学校教育課程と合わせて210名の学部になります。理工学部は395名、新たに開設する国際資源学部は120名で、その中には外国人留学生枠5名も含まれています。

国際資源学部はグローバル教育ということで、いわゆるナンショナルセンターとして機能させていきたいです。グローバル人材の国際貢献です

ね。あとは、地域貢献ということで教育文化学部と理工学部それに医学部が入るといってコンセプトです。

吉村学長は秋田大学出身ですね。

そうですね。秋田大学出身の第一号の学長です。秋田県内では、いろいろな人脈を持っていきますので、それがかなり大学の制度設計にも役立つと思います。

昨年11月26日、世界規模のミスコンテスト「2014ミス・ユニバース・ジャパン」の秋田大会最終予選（ファイ

ナル）で、教育文化学部1年の佐藤楓香さんが秋田代表に選ばれた。代表に選ばれ、周囲はもちろん自分が一番驚いたという。「まさか自分がそうなるとは思ってなかったんで、1位になってどうしようと思いました」

出場するきっかけは、今回の大会へともに参加したお姉さんの誘いからだった。「思いつくりにと参加しまし

た。最初からやる気があつて参加したわけではありませぬ。選考が進むにつれて、47人から最終まで残るのは12人。意識の高さに圧倒され、自分の中途半端を思い知った。

最終予選に向けて行われたビューティーキャンプでは、美しい女性としての所作を訓練した。部屋の外に出たら振る舞いには細心の注意を払わ

本学1年佐藤楓香さんがミス・ユニバース県代表に！「秋田美人の心をアピール」



ねばならない。普段とは違う生活習慣に心が折れそうになったが、ライバルであるお姉さんが最後までいたことが大きいと語る。

最終選考ではTシャツおよびドレスでのウォーキング、そして自己PRと審査員からの質疑応答が課せられる。佐藤さんは自分のポリシーを、ラグビーの「ワン・フォー・オール・オール・フォー・ワン（1人はみんなのために、みんなは1人のために）」という言葉でPRをした。「普段はスポーツばかりやっているから、走るのならよかったんですが」と、秋田大会を振り返る。

佐藤さんは秋田市出身の19歳。学校教育課程教科教育実践選修に所属している。運動するのが好きな学生だ。特に陸上競技とラグビーに力を入れてきた。陸上競技は中学校のころから続け、走り高跳びでインターハイに出場した経験の持ち主だ。ラグビーでは

よしむら・のぼる
1943年 新潟県生まれ
秋田大学大学院鉱山学研究所修士課程電気工学専攻修了。名古屋大学で博士号取得
1995年 鉱山学部（のちに工学資源学部）学部長
2008年 秋田大学出身者として初めて、秋田大学学長に就任
2013年 秋田県文化功労者として表彰される

らの日本人はそうでないという目です。
秋田大学に来ている留学生も今は200名を超え、交流協定校も49校まで増えてきました。いずれ50校になると思いますが、私が学長になった時は15校くらいでした。これからはグローバルの時代ですから、外国を知るといのが大事です。

私も大学の制度を利用してルーマニアに行かせていただきました。

ブカレスト大学ですね。今、特に教育文化学部の学生が、短期で春休みや夏休みに4週間くらい行っています。長期となると単位の問題もあり4年で卒業できない場合がある。そこをどうするか、これからの課題です。上手く国際教育大学のようになり、4年で卒業できるようにすれば、もっと挑戦する人が増えてくるかもしれません。

最後に、学生にメッセージをお願いします。
まずは、英語の力をしっかりと身に付けてもらいたい。それから、ぜひ在学中に外国に出て、勉強してもらいたい。私は約2年間アメリカの大学に行っていました。今となってはそれが財産ですね。英語で論文書いて、会話ができて、世界各国の人と知り合いたい。世界は一つです。とにかくパスポート持って国際線に乗ることで

それとモチベーションを上げていかないとね。そのためにも、いろいろな人と知り合うことが大切。インターンシップに行ったり、外国へ行ったり、若いうちしかできないことがいっぱいあります。アルバイトや勉強もそうです。アルバイトや勉強もそうです。小さく変化にも意味があると信じている。

（濱田俊太郎）

（村田俊輔）

「なぜ信号機が縦に長い？」

秋田に引越してきて、最初に抱いた疑問だ。それまで住んでいた岩手に設置されている交通信号機は横に長い。縦長の信号機は6歳の私に強烈なインパクトを与えた。他県から秋田大学に入学した学生も、最初は同じ疑問を持ったかもしれない▼秋田県をはじめ、豪雪地帯の信号機が縦長である理由は、横長のものに比べ積雪面積が小さいためだという。横長では青・黄・赤すべての信号の上に満遍なく雪が積もり、見えにくくなってしまう。しかし、縦長であれば雪は赤信号の上に積もるだけだ。その理由に大いに納得した▼あれから10年以上経ち、私は大学生となった。最近、あの時と同様のインパクトを2つの信号機から受けた。1つはレンズに球状の透明なカプセルが取り付けられている信号機。もう1つは凹凸のない、タブレット端末のような薄い信号機だ。どちらも初めて見るものであった▼報道によれば、これらの特徴的な信号機はそれぞれ「球面型」「フラット型」といい、吹雪の際に雪が付きにくいように工夫されているという▼信号機に雪が付着して何色が光っているか分からないという経験は少なくない。昨年の秋に手形キャンパス南西角、百周年記念館前の信号機が「球面型」に変わっていた。吹雪の日に通るかかると、透明なカプセルの上に少し雪が付着していたが、何色が光っているかすぐに確認できた▼信号機のように目に留めないものであっても、徐々に進化している。小さな変化にも意味があると信じている。

「国際資源学部」新設

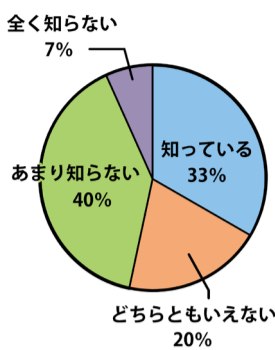
海外の仕事「興味がある」在學生6割超

今年4月に新設される「国際資源学部」。専門科目を全て英語履修し、4週間に及ぶ海外でのフィールドワーク全学生必修となっている。新しい形のカリキュラムは、学外からも高い注目を集めている。

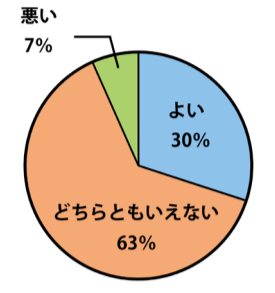
秋田大学総務課新学部創設・学部改組準備室が作成したパンフレットによると、国際資源学部は「ミッション」として「世界的資源戦略において、国際的企業・国際機関のあらゆるセクションで即戦力として活躍できる人材を育成・輩出します。」を掲げている。

学生の反応は

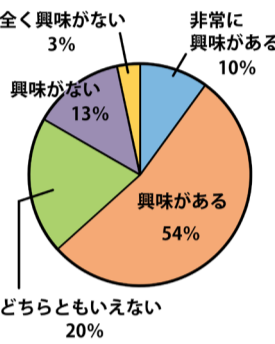
AUPでは、国際資源学部に関する在學生の印象、認知度を、対面形式でアンケート調査を実施した。秋田大学手形キャンパスの学生会館で、学部・学年・性別問わず30人から回答を得た。質問項目は「同学部を知っているか」「同学部の印象はどうか」「外国と関わる仕事に興味があるか」の3点に絞り質問した。回答は選択肢より一つを選ぶ形で基礎データを揃え、インタビューで細かい学生の言葉を抽出した。



① 国際資源学部について知っていますか



② 国際資源学部に対する印象を教えてください



③ 外国と関わる仕事に興味がありますか

グラフのように同学部の認知度は30%と低く留まった。多くの学生は「授業が英語になる」「現在の地球資源学科が国際資源学部になる」など大まかで断片的な情報のみを保有し、細かいカリキュラム等を知っている学生は見られなかった。

グラフのように、同学部の印象については「どちらともいえない」が63%と最も高かった。一番の理由は「詳細を知らないから」と、先の質問の結果を反映されたものになった。在學生にとっては、必ずしも関心事ではないようだが、印象が「よい」と回答した主な理由では「国際的に活躍できるから」、「日本の大学生に足りない英語力やコミュニケーション能力を育てられるから」といった回答を得た。一方、「印象が悪い」理由として「優秀な学生が興味を持っていないとは限らない」と受験生の質について否定的な意見も伺えた。

国際資源学部は「グローバルな資源人材の育成」を目指している。それに関連して、外国と関わる仕事に興味があるかを聞いた。

「興味を持っている」と答えた学生は全体の6割以上を占め、外国への関心の高さを表す結果となった。理由では「英語が好きだから」、「日本と違う文化があり、取り入れてみたいから」などの回答がみられた。「どちらともいえない」と回答した学生は「英語が苦手」「外国でうまくやれる自信がない」と現在の自身の状況を語った。

▽調査の方法= 2013年12月13日午後から、手形キャンパス学生会館アメニティー及び食堂でアンケート調査を実施。国際資源学部に関連する3つの質問について5段階で評価してもらった。

一方、国際資源学部の運営方法には疑問の声もある。秋田大学教職員組合で委員長を務める、工学資源学部の山元正継准教授(岩石学)は「新

運営方法に疑問の声も

「英語が好きな人から」、「日本と違う文化があり、取り入れてみたいから」などの回答がみられた。「どちらともいえない」と回答した学生は「英語が苦手」「外国でうまくやれる自信がない」と現在の自身の状況を語った。

外国に関わる仕事に興味を持っているが、言語や文化の違いが、海外に出たい学生の課題となっている学生にとって、新学部の設立は一定のニーズがあることを示しているといえる。

学部はトップダウンの運営になる可能性が高い」と問題点を挙げる。

山元先生によると、国際資源学部の運営方法は他学部と異なり、「連携運営パネル」と呼ばれる民間企業の研究者2名、連携大学の教員3名、学部代表教員(学部長、副学

部長、コース長3名)5名によるチームが、学長の下で学部運営に強い影響力をもっていう。学校教育法93条において「重要事項を審議する」とされる教授会は、「学生個人に関する教学面のみ関与する」として、その役割が狭められている。

「大学にはあらゆる分野の専門家が集まっている。ディスカッションの中で知恵を出し合えるはずだ」と山元先生。教授会の権限を従来の形に戻すなど、大学や新学部のあり方に見直しを迫っている。

(村田悠輔、濱田俊太郎)



防災意識高め

地域創生センター 水田敏彦教授

間もなくあの「東北地方太平洋沖地震」発生から3年になる。この地震によって、地震・津波に対する意識が変わった方も多いのではないかと。日頃の防災訓練や防災教育の大切さを思い知らされた出来事だった。

秋田大学の地域創生センター地域防災部門では、地元住民に向けて、ネットや講演会を通して防災教育を行っている。

また、地域の幼稚園や小・中学校などに出向き、講演会を行っている。その中の活動として、防災マップ作りがある。子供たちに、自分の通学路で、災害時に危険となりうる要因を書き込んだ地図を作らせるものだ。こういった体験によって子どもたちが日頃から、災害時に気を付ける場所を意識して生活するようにするという。児童向けの防災教育の効果は子どもだけでなく、親に防災の話をする中で、親の防災意識も高まる。そういった波及効果もある」と水田先生。講演によって防災意識を高め、住民に自分の命は

自分で守るという意識を持ってもらう。これが犠牲者を減らす一番の近道だと考えている。

水田先生が防災を研究するきっかけとなったのは1995年の「兵庫県南部地震」だった。大学院で地震工学の研究室に進学した水田先生は、地震調査のために兵庫県南部地震の被災地へ向かった。そこで目にしたのは、以前まであった建物が甚大な被害にあった光景だった。水田先生は「世界的に見て地震に強いといわれてきた日本の建物が数多く崩れてしまっていた。こんなにもろいのか」と思った」と当時を振り返る。

水田先生が若者に期待することは、周りの人を助けようという気持ちを持つことだといふ。その気持ちが本物であれば、災害に巻き込まれたとき自分に何ができるかを真剣に考え、結果的に被害の減少につながる」と水田先生は考えている。その中でも特に学生には、他人を手助けするのに必要な知識、教養を今のうちに身につけるため、現在向き合っていることに精一杯取り組んでほしいという。自分の住む地域が災害に巻き込まれた時、それが役に立つかもしれないからだ。

最後に「どうしても風化してしまいう地震の記憶を、学生たちの子孫の世代、孫の世代、その次の世代と、絶えず伝えていってほしい。これは東日本大震災を経験した我々の義務だ」と水田先生は力強く語った。

(松田眞生)

新規のご契約・機種変更
法人割引ご提案・契約変更
ご利用料金のお支払い
携帯料金のご相談 etc

GL09P
月々 2,480円~
ウィルコムプラザ秋田
イーモバイルスポット秋田
TEL・070-5093-0116

秋田大学生限定!
お手頃価格で衣装をレンタル!

卒業式 着物・袴セット
衣装 レンタル料 **25,000円**

成人式 振袖セット
衣装 レンタル料 **35,000円**

お申し込み・お問い合わせは
ブライダルサロン ジュライ
〒010-0013 秋田市保戸野鉄砲町1-38
☎018-862-8263

Tanto CUSTOM
「走り」も「見た目」も美しい。
ダイハツのカスタムは、

もっと軽にできること。
お客様相談室 ☎0120-62-4125
受付時間: 休業日を除く10:00-18:00(除く12:15-13:15)
http://dd.daihatsu.co.jp/akita/

大館店	☎0186-42-3208	本庄店	☎0184-22-3027
能代店	☎0185-52-1225	大曲店	☎0187-62-3285
土崎店	☎018-846-5621	角館店	☎0187-54-3507
八幡店	☎018-862-4115	横手店	☎0182-32-0256
仁井田店	☎018-839-2061	湯沢店	☎0183-73-8113

デザイン文具・雑貨
アウフヘーベン
秋田市保戸野鉄砲町 9-58
電話 018-853-0533
営業時間 朝の10時から夜8時まで
www.aufheben-store.com

aufheben
stationery and sundries
9-58 Hodono Teppo-machi, Akita
tel. +81-(0)18-853-0533
open hours 10:00-20:00
www.aufheben-store.com



地域の人に愛される鉄道になってもらいたい

大穂 耕一郎さん

鉄道に夢中になった 大学時代

大穂さんは1972年に秋田大学教育学部(当時)に入學した。小さい頃から鉄道に興味のあった大穂さん。大学選びの決め手となったのも鉄道だった。親元から離れ、東北のどこかで大学生活を送りたいと考えていた当時、蒸気機関車が一番見られるのは秋田市だった。「秋田大学の教育学部は、教員免許が取れて、授業料も安く、蒸気機関車の写真も沢山撮れる」という私の求める条件が全て揃っていたんですね

大学時代、昼休みになると現在の秋田駅東口付近にあった秋田機関区に通った。機関区では機関車が運行の合間に休んでいた。大穂さんは許可を得て写真を撮らせてもらっていた。立ち入るためには名簿の記入が必要だったが、毎日通っていたため次第に顔を覚えられ、記入しなくてもよくなったという。

区では機関車が運行の合間に休んでいた。大穂さんは許可を得て写真を撮らせてもらっていた。立ち入るためには名簿の記入が必要だったが、毎日通っていたため次第に顔を覚えられ、記入しなくてもよくなったという。

また、部員10名ほどの鉄道研究会にも所属していた。鉄道研究会では一緒に写真を撮りに行ったり、情報を教えあったりしていたという。大穂さんの代が卒業してしまつた後輩がいなくなつてしまつた。現在も公認サークルとして存在しないことについて「こうして裾野は広がっているのに、どうして無いのかなと個人的に思いますね」と残念がった。

大穂さんが内陸線に携わるようになったのは、東京で小学校教諭をしていた2003年。同路線の存続支援を行うため発足した「内陸線サポーター」への参加がきっかけだった。当時、秋田県は乗客減が続く同路線の廃止と、バス運行への転換を検討していた。大穂さんは大学時代、同路線の前身である国鉄阿仁合線を走る蒸気機関車の写真を撮っていた。県内の鉄道路線の中で一番のお気に入りだった。「急がないとどうしようもない」と思い、大穂さんは内陸線の支援を決心。地元のスポンサーと協力し、イベントや写真展を開催した。この

大穂さんが内陸線に携わるようになったのは、東京で小学校教諭をしていた2003年。同路線の存続支援を行うため発足した「内陸線サポーター」への参加がきっかけだった。当時、秋田県は乗客減が続く同路線の廃止と、バス運行への転換を検討していた。大穂さんは大学時代、同路線の前身である国鉄阿仁合線を走る蒸気機関車の写真を撮っていた。県内の鉄道路線の中で一番のお気に入りだった。「急がないとどうしようもない」と思い、大穂さんは内陸線の支援を決心。地元のスポンサーと協力し、イベントや写真展を開催した。この

北秋田市の鷹巣駅と仙北市の角館駅を結ぶ秋田内陸線。かつての日本国有鉄道(国鉄)から赤字路線を引き継ぎ、現在は第3セクターが運営する全長94.2kmのローカル線だ。同路線の存続運動に尽力している秋田大学OBの大穂耕一郎さん(60)に、学生時代の様子や存続運動の過程についてお話を伺った。



おおほ・こういちろう
1954年 東京都生まれ
秋田大学教育学部卒
東京都の小学校教員を経て、2011年に北秋田市へ移住
現在は「くまのたいら企画」を立ち上げ、イベントやツアーの企画を手掛けるほか、NPO 秋田内陸線沿線地域エコミュージアム会議の理事を務める

秋田宇宙開発研究所 設立

民間企業と大学が連携、優秀なエンジニアの育成を目指す



同研究所の所長を務める和田先生
大学院時代に JAXA の宇宙開発研究所に派遣された経験をもつ

昨年10月18日付で、秋田大学イノベーション創出総合研究機構「秋田宇宙開発研究所」(所長・和田豊大学院工学資源研究科講師)が設立された。同研究所は、大学主導のもと、県内外の民間企業や学生と共に、秋田県産ロケットの開発を通して優秀なエンジニアの育成、また宇宙開発における基礎的技術を養うことを目的としている。

現在の日本における宇宙開発事情として、ロケット開発に着手する人材の育成の難しさが指摘されている。ロケットのメインエンジンが開発されてから何十年と経つが、現段階でもその信用性の高さからそれを使い回しているため、ロケットの新規開発が行われていないからである。若手のエンジニアや学生の育成の重要性はこれらが背景にある。

同研究所は10月26日、秋田県産のロケット「ASSR-TF01」の打ち上げ実験を行っている。この実験は、高度60キロメートル領域へのアクセス手段を獲得するためのロケット開発を目的としている。今回はその試作機を高度500メートルまで飛ばし、各製品の動作確認を主に行った。日本はまだ高度60キロメートルの領域を探索する中規模ロケットを有していない。その領域は限りなく無重力に近い微小重力地点であるため、このロケットの開発が成功すれば、様々な無重力状態での実験を行う場所を提供することが可能となる。和田先生は、「私にとって宇宙はチャレンジするところだ。新しいロケットの使い方の可能性を提供していきたい」と語る。

(攪上真真)

地域活性化のために

くまのたいら企画では、「地元の良いものを、話題性を提供して沢山のの人に紹介したい」という思いから、独自

様子は県内のメディアに取り上げられ、存続の必要性をアピールする機会となった。2008年、県と沿線自治体との間で同路線の存続が合意された。これを機に移住を決定した大穂さんは2010年に沿線の空き家を購入。翌年4月、小学校を早期退職し移住した。1年間、北秋田市の臨時職員として雇用され、現在はイベントやツアーの企画を行う自営業「くまのたいら企画」を立ち上げ、生計を立てている。



マルメロジャム
大穂さんと北秋田市内の菓子店が共同で開発。売り上げは好調で、用意した400個は品切れ間近

ランドの商品を開発し販売している。昨年は地元のはちみつを商品化し、沿線の商店やインターネットで販売。製造した200個は完売した。今年には北秋田市の果実「マルメロ」のジャムを400個

販売している。大穂さんは「コミュニティビジネス(地域が抱える課題を、地域資源を活かしながらビジネスの手法で解決すること)が基本。そうして外から来た人からお金をもらい、それを地域の中で回す。鉄道はその軸になる」と訴える。

存続問題が無ければ、秋田に来ることはなかったと話す大穂さん。今後の内陸線について「地域の人たちに愛される鉄道になってもらいたい。そのためには地域と鉄道の繋がりをもっと強くしなければならぬ」と想いを述べた。大学時代に出会った1つの路線を、大穂さんは40年経った今も見つめ続けている。

(村田悠輔)

毎週木曜日限定!

要予約制

学生CuT

¥1,050

(シャンプー・カット・ドライ)

① 予約時に「学生Cutキャンペーン」とお伝えください。(忘れた際は無効)

② 学生証の提示をお願いします。(小学生、中学生はいりません)

③ プラス料金でメニュー追加可能(パーマやカラーなど)

printemps
FOR HAIR

☎ 0120-270-506

秋田市保戸野千代田町2-50
OPEN 10:00 CLOSE 19:00
年中無休

picasso
Hair make

☎ 0120-438-228

秋田市広面字堤敷25-1
OPEN 10:00 CLOSE 19:00
年中無休

under-colors
FOR HAIR

☎ 0120-685-578

秋田市中通7丁目2-1 ALS BF
OPEN 10:00 CLOSE 19:00
年中無休

TOP ART
FOR HAIR

☎ 0120-847-663

秋田市東通仲町4-1 アルヴェエ3F
OPEN 10:00 CLOSE 19:00
年中無休

Map

ミス秋大の素顔に迫る

大切なのは「自分から動くこと」

秋田美人の象徴ともされる白い肌の持ち主は、第6回ミスコン「秋田大美人」(企画・運営・AUP)でグランプリに輝いた、教育文化学部国際言語文化課程4年次の守屋美有子さん。自らを「ずぼら」だと称する守屋さんの指先にはピンク色のネイルが光る。そんな今年度のミス秋大の素顔に迫った。

そもそもなぜミスコンへの出場を決めたのか。「私が出場することで、友達や家族が面白がってくれたらと思ったんです」と笑顔で出場への心境を明かしてくれた。みんなを楽しませたいと考えていた

守屋さん。自身も満喫したという秋大祭は、大学生活の中でも一番の思い出と振り返ってくれた。

英語の教員を目指して4年間学んできた守屋さん。卒業論文のテーマは「校則」について。高校の時から一部の校則の必要性に疑問を抱いていたという。教育実習を通してその思いが強まった、と引き締まった表情を見せた。欧米文化選修でありながら、教育に関する卒論に臨んでいる。

卒論やバイトに追われる忙しい毎日を送る守屋さん。「たくさん寝ることとユーチューブでお笑いを見ることで息抜きしています」と顔をほころばせながら話してくれた。時間があれば散歩をすることもしばしば。あてもなく音楽を



▲中学校でお世話になった先生への憧れをきっかけに、教師を目指し始めたという守屋さん。「メリハリのある先生」になるのが目標だと笑顔で話してくれた



▲ミスコン第一部での守屋さん

聴きながらのんびり歩くのが好きだという。一人で過ごす時間を大切にしている一面も伺えた。また、学生として最後となる長期休暇は国内・国外合わせて4つの旅行を計画中だと声を弾ませた。しかし、「卒業はしたくないです。ほんと嫌です」と刻々と迫る学び舎との別れを惜しむ姿もみられた。

小学校訪問やものづくり教室などのボランティア活動にも積極的に取り組んできたという守屋さん。「大学では自分から動くことが大事」あつという間違ったという学生生活を振り返り、後輩へのメッセージを残してくれた。

(山口詠木)

雑誌の制作、また過去にはゼミナールの開催など、活動は多岐にわたる。AUPのOBである田代周祐さん(26)はその点に着かれて入部したという。「新聞の広さを集めたり、

雑誌の制作、また過去にはゼミナールの開催など、活動は多岐にわたる。AUPのOBである田代周祐さん(26)はその点に着かれて入部したという。「新聞の広さを集めたり、

活動的な部員が多かった当時。それゆえ、他の部員が納得できない事もあった。サークルの存続のためには下級生のモチベーションが欠かせない

もあつたよ」と田代さんは当時の苦労も口にする。

AUPの一番の活動といえば、新聞制作。取材や執筆、編集など完成までの道程は長い。表現や構成の工夫に思い

近はそれが薄くなってきたように思いますね」と指摘する。

また前顧問の吉岡尚文理事は、秋田大学の学生新聞の役割として、学生同士のコミュニケーションの場であれば良いと語る。「2つのキャンパス同士の情報交換が出来るれば、内容の幅が広がるのではないのでしょうか」

今回の取材で、今の我々には積極性が足りないと感じた。今後は常に周囲に関心をもち、自分のやりたい事を見極めていきたい。AUPはそれが実現できる場なのだ。

(石田圭織)

AUP 5周年企画

AUPの今昔

AUP秋田大学報道局は昨年、発足5周年を迎えた。現在15名の部員が所属し、新聞制作やミスコンの運営などの活動を行っている。活動の中心となっている新聞づくりでは常に進化をすることを目標としている。その一方で創刊当時の紙面構成を求める声もある。今の我々には何が必要なのか。今回はAUPの変遷を知る方々に話を聞き、今後の活動のヒントとしていきたい。

創刊号が配布され始めた時、目立った活動をする学生が少なかった。そのため、新聞の発行は大きな話題を呼んだ。他にもミスコンの運営や

ミスコンで芸能人を呼ぶなんてことは普通の大学生活を送っていたら出来ないこと。その中で外部の人との繋がりが出来て、こういう人もいるんだと感じられたのが良かった

悩む事も多々あり、議論は尽きない。現顧問であり、以前の部員を知る辻野稔哉准教授(フランス文学)は「初期は、『学生の思いを言葉にしよう』という力みがありました。最

人気NO.1はホルホル丼 丼コンテスト開催

昨年の12月6〜9日にかけて秋田大学手形食堂で、一般公募の中から最も美味しい丼を決める丼コンテストが開催され、優秀賞には工学資源学部1年次の小松正弥さんの「ホルホル丼」が選ばれた。

公募で集められた丼は全部で67品。この中から秋田大学手形食堂の職員と学生委員会を選定した後、考案者と実際に試食を行った。今回エントリーしたのは4品。優秀賞の「ホルホル丼」は人参や玉ねぎと一緒に煮込まれたホルモンがたくさんご飯の上に載っている。丼コンテストでは売上の杯数とその順位につながらず、「ホルホル丼」は二位に大差をつけての優勝となった。

「他の3品と比べて、お肉がたくさん食べられる丼が大學生に好まれたのでは」と手形食堂店長の岡田さん。コンテストでの販売期間は4日間だったが、現在「ホルホル丼」は一般商品化が計画されている。食べたことのない人は、ぜひ大学食堂に訪れてみてはどうだろうか。(嶋崎雄基)



▲ホルホル丼 ▲丼コンテストの様子



編集後記

「濱田さんの予定はAUP以外に無いんですね」ある部員にお気入りの手帳を見せていると、こう言われた。確かにそうだ。外で友人をつくっても、彼女ができて、なぜかサークルに結びついてしまう。

4年間も同じような作業を繰り返してきた。見ず知らずの人から話を聞き、内容を原稿に起こし、紙面に載せる。その繰り返しだ。時にはインタビューを聞き返し、涙を流した。またある時は、自分が書いた記事に外から反応があり、飛び跳ねて喜んだりもした。

しかし、これは単なるサークルである。私たちがいくら打ち込んだところで、何の生産性もないのかもしれない。新聞制作は決して楽なシゴトではない。何度も何度も文章は書き直され、面倒な編集

作業は深夜にまで及ぶ。広告営業では電話を掛け、何も言わずに突然切られたことがあった。時間や労力などの費用対効果は考えたくもない。無論、一生懸命やっているからといって良いものができるわけでもなく、最近の新聞については自分の力不足を感じることが多い。

ただ、確かめるまでもなく私は新聞づくりを楽しみ、熱中していた。大切な4年間をAUPに捧げたといつてもいいくらいだろう。

どうして新聞をつくっているのか？

卒業後に自ずと答えは出る。今はそれでいいのだろう。

最後になりましたが、今回取材にご協力いただいた皆さま、広告を下さった事業主の皆さまに、心より感謝申し上げます。今後もAUPをよろしくお願いたします。

(濱田俊太郎)

バンド募集!
お客様の前で演奏してみませんか?
ドラムやPA機材はセットしてあります!

生ビール1杯サービス!
4月1日〜31日まで、秋田大学の学生証提示で生ビール1杯(小グラス)をサービスいたします。

ライブ開催!
詳しくはWEBへ
popcorn-akita.com

Café & Bar Popcorn
秋田市中通2丁目7-2 緑屋ビル別館2F
日・祝・月・水・木 18:00〜26:00
金・土・祝前日 18:00〜27:00
☎ 018-893-4044 火曜定休

2階堂姉妹来店!
2014. 3. 30 (日) 13:00〜

フリー東南戦
メンバーカードでゲーム料金無料など、会員特典多数あり!

セット・フリー共にドリンク無料飲み放題!
セットのお客様に限り、生ビールやカクテルを500円で提供!

点5専任メンバー大募集!

フリー麻雀 RON RON
☎ 018-874-7081
営業 12:00〜25:00
年中無休
秋田市中通2丁目7-2 秋田駅前 緑屋ビル別館2F
http://www.ron-ron.net/